うさぎのブランコ

2023.01
43
ふゆ号

【開催報告】

令和4年度　看護職・介護職リハビリテーション　ステップアップ研修会
「リハビリテーションの視点を持って活躍できる看護職・介護職養成研修」

令和4年度 第2回 事例検討会
「障害のある子どもに関わる支援者と
リハビリテーション専門職のネットワーク」

【今回の表紙】
３年ぶりの対面での研修会を開催しました。
詳細については次ページ以降を参照ください。

LINE 公式アカウント
友だち募集中
@513gckqy

主催研修会情報、
活動紹介等の最新情報
を発信します

丹後圏域地域リハ支援センター公式LINE

LINE

令和４年度 看護職・介護職リハビリテーション ステップアップ研修会

「リハビリテーションの視点を持って活躍できる 看護職・介護職養成研修」

日時：令和4年11月4日（金）10：00～17：00

会場：宮津市福祉・教育総合プラザ

参加者：26名

テーマ「摂食嚥下」

講師：中島 紀夫 氏（丹後中央病院　言語聴覚士）

「食べるとは…？」摂食嚥下の基礎から学びました

研修会のポイント

- 「食べる」の仕組みを解剖学から学び、「食べる」に潜む危険について
- 誤嚥性肺炎は高齢者肺炎の1/3
- 口腔ケアを行うことで誤嚥性肺炎は40%、死亡率は60%減らすことができる
- 咽せがなくても咳の反射が起きず、不顕性誤嚥といって誤嚥している可能性がある
- 誤嚥予防には「食事姿勢」、「とろみ水」の適切な濃度、「口腔ケア」が重要
- 口腔ケア後に嚥下体操を行い、食べる準備を行うことで嚥下機能向上を図れる

参加者の感想

- 口腔介助のことを知りたかったため、参考になった
- 口腔ケアや食事の姿勢について学びを増やすことができた
- 口腔ケアの大切さや理学療法士が関われることもあると知れて良かった
- 口腔ケアの大切さや仕方を再認識できた

テーマ「トランスファー」

講師：佐藤 一喜 氏（丹後中央病院　理学療法士）

テーマ

①移乗の介助が楽になる方法

②介助される側が頑張る方法

③互いに負担にならない方法

研修会のポイント

・転倒するときは、重心が基底面の外に出てしまうときに起こる
・移乗の手順は、座位→立つ→方向転換→座る
　立つ・方向転換での負担が大きく、腰痛の原因に（介護職員の約８割が腰痛）
・立ち上がりは足を引いて、前かがみになることが重要
・高い位置から低い位置へ移ると楽
・車椅子はベッドに対して30°に設置する
・立って移乗するか、横にスライドさせるのか方法をはっきり決めておく
　2人以上で介助する場合は特に！
・どう動くのか説明し、動くタイミングを声掛けで合わせると抵抗せず
　介助しやすい
・「本人の能力」「介助スキル」「環境」など視点を増やすことが重要

参加者の感想

・負担のかからない方法を沢山教えて頂いてありがとうございました。実践してみます
・スライディングボードの使い方、体重のかけ方が自分も実際に移乗されてよくわかった
・トランスファーでは、今まで知らなかった方法や声かけなど学ぶことができ良かった
・環境を整えたり、道具を使うことで自分の負担も少なることや、様々な移乗方法があることが知れて良かった
・移乗をする上での視点や実践を通して、ポイントをおさえながら実感しながら体感することができた

宮津市の開催では、(株)三笑堂さまに福祉用具の貸し出しのご協力を頂きました

日時：令和4年11月17日（木）10：00～17：00

会場：大宮ふれあい工房　参加者：19名

テーマ「環境調整」

講師：小川 雄 氏（リハヴィラなぎさ苑　作業療法士）

環境調整のポイントについて学びました

研修会のポイント

- 自助具とは「障害を持った人がＡＤＬを行う上でどうしても障害のためにできない部分を補う工夫品、**便利用品**」
- 住環境調整は、住宅改修だけでなく、**ちょっとした「工夫」や「意識」**によって行える
- ADL動作に関してはできるだけ現実的なシミュレーションを行う
- ひとりで考えず、その方の環境調整に関わる人々の意見や発想も参考にする

今までの環境調整で困ったことは？

- 普通の車椅子では、身長の高低で合わないことがあるのですが…
  ⇒　その人に合わせて、車いすの調整を行う。必要あればクッションで調整する
- 自分で移動したい転倒を繰り返す利用者さんにどんな環境が良いですか？
  ⇒　移動する姿勢と、座って過ごす姿勢を分けて考えて調整をする
- 自宅の足マットが引っかかりやすいが、外してもらった方が転倒しにくいですか？
  ⇒　滑りにくい・引っかかりにくいマットに変更する。入院・入所中から訓練する
- 自宅での生活環境を考えるうえでどこまで考えた方が良いでしょうか？
  ⇒　可能であれば、実際の自宅で訓練を行い、本人・家族と一緒に相談して過ごしやすい環境を考えていければ良い

参加者の感想　明日から実践したいことは？

- 福祉用具の利用について学ぶことができ考える視点が増えた
- 目的がわからずに、とりあえず環境調整をしていることが多いと振り返るきっかけになった。目的を考えてそれに沿った対応、「その人に合った調整」を心がけたい
- その人に合わせて福祉用具を選んでいきたい
- 環境調整ではいろんな福祉用具を知っておくことで患者さんに提案できると改めてわかった

テーマ「ポジショニング」

講師：松田 佳憲 氏（丹後中央病院　理学療法士）

「ポジショニングのその前に」

ベッドでのポジショニングについて学びました

研修会のポイント

- 対象者が**どのような人か知り、何のために行うか**目的を明確に
- 快適で安定した姿勢や活動しやすい姿勢を提供して、「長期臥床の弊害」を防止する
- 対象者の全体を見て、どんな姿勢でいるのかを**「気づく」**ことが必要
- 摩擦やズレは、褥瘡の原因。**体圧変換・体圧分散**をして、不快や痛みを与えないように

参加者の感想　明日から実践したいことは？

- 安楽な姿勢にと、抽象的な表現になることもあり、ポジショニングを何故行うのか目的を見直した上で、今日学んだ内容を職場で共有したいと思う
- 食事姿勢でのポジショニングで、ギャッジアップやクッションなどを工夫することでその人が食べやすい姿勢というのを探していきたい
- ポジショニングでは一度ポジショニングしたら遠いところから見て調整していくことが大切だとわかった
- 目的をもってポジショニングを行い、試行錯誤を繰り返していく必要があると思った
- 知識を増やしていくことも大事だが、「その人に合った調整」を心がけたい

参加者

自分で体験してみて、ズレがとても不快でしんどいものか
よく分かりました

実際に体験してみるのも、良い学びになりました

京丹後市の開催では、(株)相弥さまに福祉用具の貸し出しのご協力を頂きました

令和4年度 第2回 事例検討会
「障害のある子どもに関わる支援者と リハビリテーション専門職のネットワーク」

日時：2022年12月1日（木）17：30～19：00
会場：各所属先（Web開催）　参加者：31名

実践報告
「特別支援学校に通う脊髄性筋萎縮症（SMA）を呈する Aさんの訪問リハビリテーション」

支援学校との連携において、リハビリテーションで協力できることはありませんか？
支援学校卒業後の生活について、多職種で検討の機会が必要

川戸　達　氏
丹後中央病院　理学療法士

実践報告「教育現場での実践」

- 動いたことがないこどもは、動くことがわからない
- 環境を整えると こどもは参加ができる

篠原　勇　氏
京都府立与謝の海支援学校　教諭

情報交換での主な意見「参加者の立場から障害のある子ども達への支援を考える」

- 診察場面では見れない学校での様子を見ることができて、感激した。障害のある子ども達を支援する後進の育成をしていく必要がある
- 子ども達の活動（授業）の中で笑顔を大切にしていて、今後も意識して関わっていきたい
- 医療機関では見れない子ども達の様子を見ることができてよかった
- 訪問リハビリテーションとして関わっていて、リハ専門職としてできることは限られているので、今後も連携をとっていきたい
- 学校でしかできないことはたくさんあるのだなと思った。学校卒業後に、福祉サービスを利用し始めると、とたんにサービスが減ることが申し訳ないと思っている。せっかく学校で獲得したことが途絶えてしまうことがもったいない。家族がいかに生活しやすくできるかも、医療的コーディネーターとしては考えている。母親がコーディネーターの役割を担っていることが多いので、相談支援専門員としては、そのお母さんをどう支えるのかを考えている
- 障害のある子ども達を支える支援者の橋渡しであったり、正しい情報が行きわたるような仕組みを考えていく必要がある
- 他職種の方の感想を聞き勉強になった。学校卒業後の活動の課題を地域で補っていくための一歩として、まずは学校での活動を知ることを始められたと感じている
- 障害のある子ども達に関わる支援者がそれぞれできることをやっていく、現状であきらめるのではなく、連携の中からできることを探していく。この地域に生まれてよかったと思える地域になっていけば素敵。それぞれができることをちょっとでも考えられるように、お互いに協力できるとさらに素敵
- 自分たちにない発想をする人から学んでいって、気づいていくことが、子ども達、家庭をより良く支えていくことになる。そしてその輪が広がれば、より暮らしやすい地域に変わっていく。他職種から学び、多職種で学ぶことが大切

全体を通しての感想（事例検討会アンケート）

- こういった機会が継続されるといいなと感じました
- 子供の笑顔の引き出し方、引き出すことの大変さを知りました。 学校での活動を知れて、地域の生活や活動を知れて、大変勉強になりました
- 参加者の共通の気づきが多く、連携の場としてよい研修会でした。このまま発展して行くといいですね
- とても良い研修でした。やはり多職種での関わりは有益だと再度感じました
- 病院とは、違う表情が見れて感動しました。 また、その子の力を引き出すことの大切さを学べました。
- 本当に対象に関わる様々な皆さんとつながり、情報共有できることがとても大切ですし、そこから新たな取り組みも生まれていくものだと考えます
- 福祉職員の中には、リハ職と密に情報交換がしたいと思っている方も多くいると思いますので、ぜひぜひこのような機会を増やしていたければと思います
- 本当に対象に関わる様々な皆さんとつながり、情報共有できることがとても大切ですし、そこから新たな取り組みも生まれていくものだと考えます

丹後圏域地域リハビリテーション
連携指針（改訂版）完成！

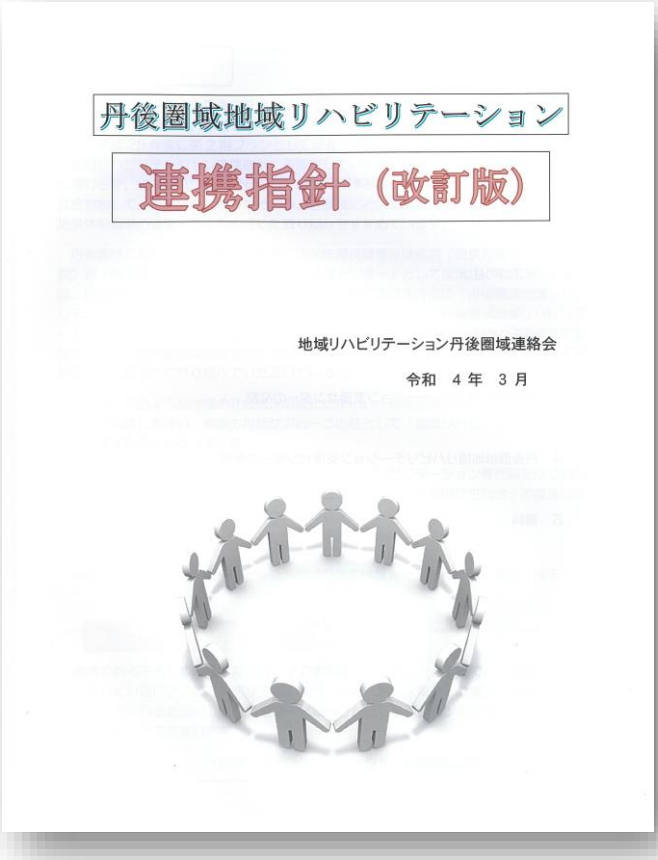
約10年前に策定された連携指針について、地域課題の整理や対策の見直しが必要となり、令和3年度に丹後圏域地域リハビリテーション連携指針の改定を行い、このたび冊子として完成しました。

丹後圏域地域リハビリテーションの目標

丹後圏域において、高齢者が介護を必要となっても、また要介護となる前から住み慣れた地域で安心して暮らせるよう「地域包括ケアシステム」を推進することや、障害がある人もない人もそれぞれに**役割をもって地域参加**し、共に支え合う「地域共生社会」を実現することを目標に、**多職種と連携**し合って地域リハビリテーションを推進していきます

お手元に届いている冊子を一度手に取っていただいて、目を通していただけたらと思います。

もしお手元にない場合は、地域リハ支援センターのHPから閲覧していたくか、以下のQRコードからアクセスしてご覧ください。



編集後記

対面研修を久しぶりに開催しました。感染対策を行っての実技も行いましたが、やはりリモート研修では学ぶことができない学びが多くあったとアンケートを見ていて思います。
お気軽サミットも対面とWEBのハイブリッドで行えたらと考えていましたが、現在の新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みて、やむなくＷＥＢ開催としました。早く対面研修ができるようになって、研修前後の気軽な会話も楽しめるようになってほしいです。（Y.S）

編集/発行：丹後圏域地域リハビリテーション支援センター(公益財団法人　丹後中央病院)

連絡先：TEL0772-62-8301　FAX0772-62-8302　e-mail tango-rehabili-shien@tangohp.com

「丹後地域リハ」で検索！